

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：32519

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530803

研究課題名(和文) 母親の育児ストレスを軽減させる保育所や保育士の取組みの研究

研究課題名(英文) How Nursery Staff Approaches Reduce Mothers' Parenting Stress.

## 研究代表者

大内 善広(Oouchi, Yoshihiro)

城西国際大学・福祉総合学部・助教

研究者番号：00454009

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、保育所や保育士の取組みが母親の育児ストレス軽減にどのような影響を与えるのかを検討するために、2県内の保育所を対象に質問紙調査を実施するとともに、現場で働く保育士を対象にインタビュー調査を行った。

研究の結果、1) 保育士からサポートを受けていると感じている母親は育児ストレスが低いこと、2) 保育士に母親自身について理解を示してもらっていると感じている母親ほど育児ストレスが低いこと、3) 母親の就業形態や子どもの年齢によって、保育士の関わり方の育児ストレスへの影響に違いが生じることなどが示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to find out which behaviors by nursery staff reduce the parenting stress of mothers. To answer this question we devised two questionnaires, one for nursery staff and one for mothers, and we administered the questionnaires in two prefectures. We also interviewed nursery staff about their approaches to their work.

Our results show that 1) mothers who feel they have the support of nursery staff have low parenting stress 2) mothers who feel they are understood by nursery staff have low parenting stress, and 3) nursery staff approaches have different effects on the parenting stress level of mothers depending upon the working conditions of the mother and the child's age.

研究分野：教育心理学

キーワード：育児ストレス 保育所や保育士の取組み マルトリートメント 母親の就業形態 指示的関わりと受容的関わり ソーシャルサポート マルチレベルモデリング

1. 研究開始当初の背景

2009 年度から施行された保育所保育指針の改定では、保護者への支援について新たに章を設けており、保育所の職務として保護者への支援を重視している(厚生労働省,2008)。また、保護者への支援について必要だと思われるものの中に母親の育児ストレス(佐藤・菅野・戸田・島・北村,1994)への対応がある。

母親の育児ストレスとは、子どもや育児に関する出来事や状況などにより母親が経験する困難な状態(佐藤ら,1994)であり、イライラや不安などの情動反応を増大させる原因である。育児ストレスの原因として、子どもの問題行動などの子ども関連ストレスと育児効力感やソーシャル・サポートの欠如による母親関連ストレスが挙げられる(佐藤ら,1994)。子ども関連ストレスへの対応については従来の保育所の活動の中で十分な対応が行われていると考えられるが、母親関連ストレスへの対応は、保育所保育指針 2009 年度の改定において保護者への支援について新たに章が設けられており、十分な対応が必要となっている。しかし、保育所や保育士の取組みが母親の育児ストレスを軽減する効果に関する先行研究は蓄積されておらず、母親の育児ストレスに関する研究全体でも障害児を持つ母親などの臨床場面に焦点を当てた研究が多く、健常児を持つ一般的な母親の育児ストレスに焦点を当てている研究については皆無である。

2. 研究の目的

本研究は、母親の育児ストレスの軽減に対する効果的な保育所や保育士の取組みとは何かについて明らかにすることを目的としている。特に、保育所や保育士の取組みが母親にどのように受けとめられ、その受けとめが母親の育児ストレスやマルトリートメント(不適切な養育)にどう繋がっているのかに焦点を当てて検討する。

3. 研究の方法

具体的には、まず保育所の所長や保育士を対象にインタビュー調査を行い、保育所や保育士の具体的な母親支援の取組みについて整理を行った。その上で、保育所や保育士の取組みに関する質問紙を作成し、2 県内の保育所を対象に質問紙調査を行った。この調査は、調査協力の承諾が得られた各保育所の所長および保育所内で抽出されたクラスに所属する保育士と母親全員を対象に実施した。

上記調査によって得られたデータについて、SEM やマルチレベルモデリングの枠組み等を用いて分析を行い、保育所や保育士の取組みと母親の受けとめや育児ストレスとの関係性について検討した。

4. 研究成果

(1) 保育所や保育士の取組みの受けとめと

育児ストレス

保育所長や保育士からのサポートの受けとめと育児ストレス、マルトリートメントを変数として取り上げ、SEM の枠組みによる分析を行った結果、以下の結果が得られた(図 1)。

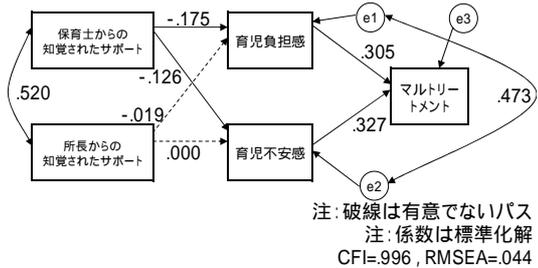


図1 保育士のサポートの受けとめと育児ストレス

母親が知覚した所長と保育士からのサポートは中程度の相関が見られ、所長が母親に対して積極的にサポートをしていることと、保育士が積極的にサポートを行っていることに共変関係を示唆された。ただし、保育所長からの知覚されたサポートからの母親の育児ストレスである育児負担感や育児不安感へのパスは有意ではなく、保育士からのサポートの受けとめが育児ストレスに影響を与えていることが示された。

また、育児負担感や育児不安感はマルトリートメントに正の影響を与えていたため、虐待の防止・予防に保育士の取組みが一定の効果を持つ可能性が示唆された。

(2) 母親自身への理解と育児ストレス

インタビュー調査から、保育士が母親に対して、育児をしている母親の役割としてだけでなく、母親自身を一人の人間として受けとめて関わることの重要性が明らかとなったため、保育士の傾聴や母親理解を変数として取り上げ、それが母親にどのように受けとめられ、育児ストレスやマルトリートメントにどう影響しているのかについて図 2 のモデルを立てて検討した。

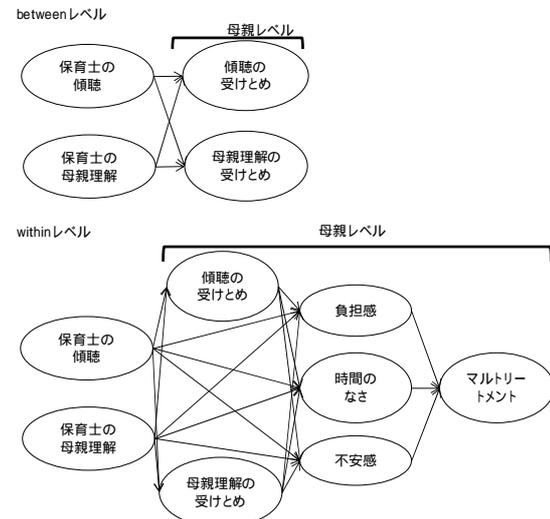


図2 傾聴や母親理解の関わり・受けとめと育児ストレスの分析モデル

なお、分析の際には、3歳以上児クラスと3歳未満児クラスを別の母集団として扱い、多母集団同時分析を行った。分析の結果、表1の結果が得られた。モデルの適合度は、CFI=.977, RMSEA=.014, SRMR(within)=.030, SRMR(between)=.080であった。

表1 図2のモデルの分析結果

(betweenレベル)				
傾聴の受けとめへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の傾聴	-.024	.018 *	.001	.725
保育士の母親理解	.029	.001 *	.002	.514
母親理解の受けとめへのパス				
	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の傾聴	-.011	.319	.002	.477
保育士の母親理解	.018	.066 +	.004	.165
(withinレベル)				
負担感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
傾聴の受けとめ	-.151	.000 *	-.125	.000 *
母親理解の受けとめ	-.081	.051 +	-.114	.000 *
保育士の傾聴	-.013	.012 *	.001	.542
保育士の母親理解	.003	.533	.002	.447
時間のなさへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
傾聴の受けとめ	-.005	.898	.008	.794
母親理解の受けとめ	-.173	.000 *	-.171	.000 *
保育士の傾聴	-.008	.295	.000	.886
保育士の母親理解	.019	.011 *	.000	.897
不安感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
傾聴の受けとめ	-.103	.002 *	-.035	.238
母親理解の受けとめ	-.088	.012 *	-.134	.000 *
保育士の傾聴	-.011	.184	-.002	.434
保育士の母親理解	.004	.625	.003	.222
マルトリートメントへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
負担感	.248	.000 *	.248	.000 *
時間のなさ	-.093	.014 *	-.047	.186
不安感	.319	.000 *	.315	.000 *

クラス間で共通した結果として、負担感を傾聴の受けとめが、時間のなさや不安感を母親理解の受けとめが低めていた ( $p < .05$ )。負担感を母親理解の受けとめが低めることについては、以上児クラスでは有意な効果 ( $p < .05$ )、未満児クラスでは有意傾向 ( $p < .10$ )が見られた。また、負担感や不安感がマルトリートメントを高めていた ( $p < .05$ )。

未満児クラスのみ見られた結果としては、負担感への保育士の傾聴の負の影響 ( $p < .05$ )、時間のなさへの保育士の母親理解の正の影響 ( $p < .05$ )、マルトリートメントへの時間のなさの負の影響 ( $p < .05$ )、傾聴の受けとめへの保育士の傾聴の負の影響 ( $p < .05$ )と保育士の母親理解の正の影響 ( $p < .05$ )、母親理解の受けとめへの保育士の母親理解の正の影響 ( $p < .10$ )であった。

以上の結果から、保育士の傾聴や母親理解が必ずしも母親に適切に受けとめられてはいないが、保育士に傾聴してもらい、母親自身のことを理解してもらっていると母親が認識することが、育児ストレスを軽減し、マルトリートメントの抑制に繋がっていると

いう傾向が示された。

(3) 母親の就業形態や子どもの年齢の違いによる保育士の関わり方の育児ストレスへの影響

インタビュー調査から、母親の就業形態や子どもの年齢によって、母親支援のあり方が異なりうるということが明らかとなったことから、母親の就業形態や子どもの年齢による違いを母集団の違いと捉え、保育士の指示的な関わり方と受容的な関わり方を変数として取り上げ、それが母親にどのように受けとめられ、育児ストレスやマルトリートメントにどう影響しているのかについて図2のモデルを立てて検討した。その際、配偶者のサポートも変数として取り上げた。具体的には、母親の就業形態を正規雇用・非正規雇用に分け、それぞれの就業形態で子どもの年齢を3歳以上児と3歳未満児に分けて多母集団同時分析を行った。分析モデルは図3の通りであり、マルチレベルモデリングの枠組みで検討した。

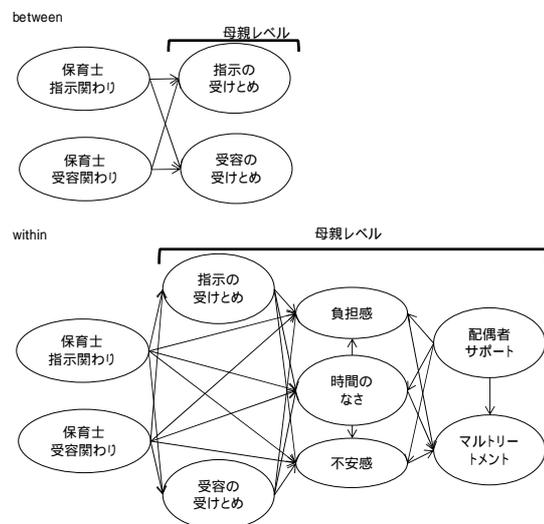


図3 保育士の指示的・受容的関わりと受けとめ、育児ストレスの分析モデル

その結果、表2・3の結果が得られた。モデルの適合度は、正規雇用での分析ではRMSEA=.035, CFI=.900, SRMR(within)=.048, SRMR(between)=.058であり、非正規雇用での分析ではRMSEA=.033, CFI=.923, SRMR(within)=.046, SRMR(between)=.156であった。なお、どちらのモデルでも between レベルでは有意なパスが見られなかったため、between レベルの結果は省略して示す。

まず、保育士の関わり方の母親の受けとめについて、正規雇用の未満児クラスでは、保育士の指示的関わり方の母親の指示的受けとめへの影響が有意傾向であったが、その他に有意なパスは見られなかったことから、保育士の関わり方は、必ずしも適切に母親に受けとめられていないことが示唆された。

次に、母親の保育士の関わり方の受けとめと育児ストレスについては、正規雇用・非正規

表2 正規雇用における図3の分析結果

負担感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
時間のなさ	.437	.000 *	.466	.000 *
指示的関わりの受けとめ	.094	.494	.230	.011 *
受容的関わりの受けとめ	-.276	.035 *	-.199	.013 *
保育士の指示的関わり	-.001	.959	-.032	.231
保育士の受容的関わり	-.018	.197	.025	.387
配偶者サポート	-.184	.000 *	-.252	.000 *

不安感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
時間のなさ	.342	.000 *	.350	.000 *
指示的関わりの受けとめ	.121	.497	.165	.044 *
受容的関わりの受けとめ	-.215	.190	-.192	.006 *
保育士の指示的関わり	.003	.910	-.015	.466
保育士の受容的関わり	-.027	.115	-.003	.910
配偶者サポート	-.166	.001 *	-.019	.733

マルチリトメントへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
負担感	.173	.061 +	.272	.000 *
時間のなさ	-.052	.381	.002	.980
不安感	.281	.001 *	.264	.000 *
配偶者サポート	-.130	.009 *	-.044	.409

指示的関わりの受けとめへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の指示的関わり	.064	.055 +	.021	.499
保育士の受容的関わり	-.035	.336	-.022	.586

受容的関わりの受けとめへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の指示的関わり	.009	.777	-.066	.282
保育士の受容的関わり	.004	.892	.073	.225

時間のなさへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
指示的関わりの受けとめ	-.315	.061 +	-.255	.006 *
受容的関わりの受けとめ	.253	.090 +	.072	.402
保育士の指示的関わり	-.015	.441	.003	.893
保育士の受容的関わり	.047	.045 *	.002	.953
配偶者サポート	-.202	.000 *	-.299	.000 *

表3 非正規雇用における図3の分析結果

負担感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
時間のなさ	.431	.000 *	.553	.000 *
指示的関わりの受けとめ	-.199	.240	.073	.598
受容的関わりの受けとめ	.085	.607	-.136	.257
保育士の指示的関わり	.023	.578	-.049	.197
保育士の受容的関わり	-.039	.343	.046	.256
配偶者サポート	-.248	.001 *	-.247	.000 *

不安感へのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
時間のなさ	.389	.000 *	.373	.000 *
指示的関わりの受けとめ	.163	.429	.188	.144
受容的関わりの受けとめ	-.143	.439	-.177	.187
保育士の指示的関わり	-.005	.906	-.023	.437
保育士の受容的関わり	-.027	.475	.025	.463
配偶者サポート	-.169	.030 *	-.089	.042 *

マルチリトメントへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
負担感	.368	.000 *	.166	.018 *
時間のなさ	-.209	.017 *	-.121	.062 +
不安感	.298	.000 *	.350	.000 *
配偶者サポート	-.019	.765	-.078	.087 +

指示的関わりの受けとめへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の指示的関わり	.049	.374	.002	.951
保育士の受容的関わり	-.034	.520	-.021	.563

受容的関わりの受けとめへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
保育士の指示的関わり	.012	.750	-.004	.885
保育士の受容的関わり	.059	.186	.005	.828

時間のなさへのパス	未満児クラス		以上児クラス	
	推定値	有意確率	推定値	有意確率
指示的関わりの受けとめ	-.444	.087 +	-.272	.094 +
受容的関わりの受けとめ	.279	.247	.293	.063 +
保育士の指示的関わり	.006	.895	-.001	.977
保育士の受容的関わり	-.041	.339	-.022	.382
配偶者サポート	-.195	.010 *	-.150	.002 *

雇用を問わず、指示的な関わりの受けとめは時間のなさを軽減するが、育児ストレスを高めてしまう傾向があることが示された。しかし、正規雇用の母親には、受容的な関わりの受けとめは育児ストレスを軽減しうる一方で、非正規雇用の母親には、子どもの年齢によって受容的な関わりの受けとめが時間のなさを高めてしまう傾向があることが示された。

以上のことから、母親の就業形態や子どもの年齢の違いによって、保育士の関わり方の受けとめの育児ストレスへの影響が異なることが示された。

## 文献

厚生労働省(編)(2008)．保育所保育指針解説書 フレーベル館  
 佐藤達哉・菅野まゆみ・戸田まり・島悟・北村俊則(1994)．育児に関するストレスとその抑うつ重症度との関連 心理学研究 64, 409-416.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 6件)

野澤義隆・大内善広・萩原康仁(2015)．保育士の指示的・受容的な関わりが母親の育児ストレスに与える影響 - 非正規の就労形態による検討 - ．日本発達心理学会第 26 回大会，東京大学，2015年3月20日．

大内善広・野澤義隆・萩原康仁(2014)．保育士の母親への指示的・受容的な関わり方が母親の受けとめや育児ストレスに与える影響．日本教育心理学会第 56 回総会，神戸国際会議場，2014年11月9日

大内善広・野澤義隆・萩原康仁(2013)．配偶者からのサポートがない状況での保育所・保育士からのサポートと母親の育児ストレスの関連性の検討．日本教育心理学会第 55 回総会，法政大学，2013年8月18日．

野澤義隆・大内善広・萩原康仁(2013)．保育所の取り組みが保育士のキャリア発達に与える影響．日本発達心理学会第 24 回大会，明治学院大学，2013年3月17日

大内善広・野澤義隆・萩原康仁(2012)．保育所長や保育士からの知覚されたサポートが母親の育児ストレスに与える影響．日本教育心理学会第 54 回総会，琉球大学，2012年11月25日．

野澤義隆・大内善広・萩原康仁(2012)．母親を取り巻く様々なサポート源が育児スト

レスに与える影響．日本子育て学会第4回大会，神戸大学，2012年11月18日

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
[http://www.geocities.jp/yoshi\\_o07/kaken/index.html](http://www.geocities.jp/yoshi_o07/kaken/index.html)

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

大内 善広(OOUCHI, Yoshihiro)  
城西国際大学 福祉総合学部 助教  
研究者番号：00454009

### (2)研究分担者

野澤 義隆(NOZAWA, Yoshitaka)  
立正大学 社会福祉学部 助教  
研究者番号：20550859

### (3)連携研究者

萩原 康仁(HAGIWARA, Yasuhito)  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター・基礎研究部 総括研究官  
研究者番号：30373187